

【授業科目】成人急性期看護援助論

Adult Acute Nursing

| 担当教員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | 実務経験 | オフィスアワー | 教職員への授業公開 |
|---|---|------|----------|---------------|------|------|--|-----------|
| 吉田 和枝、杉崎 一美、豊田 妙子、 小寺 直美、吉川 尚美 | 3年次 前期 | 必修 | 2 | 46 | 演習 | あり | 巻末 掲載 | 可 |
| 授業概要 (内容と進め方)及び 課題に対する フィードバック 方法 | 授業概要/急性期看護の特徴、周手術期にある成人期の人々、救急患者の身体的・心理的・社会的特徴や、家族を含めた健康課題・ニーズ、治療による侵襲による生体反応と合併症などの心身への影響のアセスメント方法について講義およびGWや演習を通して理解を深める。 周手術期過程(術前・術中・術後)に必要な看護実践の基盤となる知識や技術により、各疾患・手術に特徴的な看護実践についても教授する。 課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートについては、全体の総評コメントを授業内で提示する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める | | | | | | | |
| 授業の 位置づけ | 本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している | | | | | | | |
| 到達目標 (履修者が 到達すべき 目標) | ①急性期患者の疾患や病態、手術侵襲とその生体反応の特徴について記述することができる。 ②各疾患の周手術期の経過と看護展開について記述することができる。 ③救急患者の看護について病院前、病院搬送後の看護について理解できる。 ④術後合併症のアセスメントや予防についての安全な看護の実践方法を修得することができる。 ⑤創傷管理、BLS、ストーマケアの実践方法を修得することができる。 | | | | | | | |
| 時間外学習 に必要な 内容・時間 | 第1回事前学習：成人看護学概論で学んだ理論について復習しておく(60分)。第2~8回事前・事後学習：周手術期看護、術後合併症について教科書を事前に読んでまとめ、授業後は不足分を補っておく(各60分)。 第9回事前・事後学習：術後創傷治癒過程について課題を課す(各60分)。 第10回事前・事後学習：術後合併症のフィジカルアセスメントについて課題を課す(各60分)。 第11~16回、事前学習：各疾患の特徴的な病態などについて既修の授業資料を復習しておく(各60分)。事後学習：各疾患に対する看護上の問題/看護診断とその看護のポイントについてまとめておく(各60分)。 第15・21回事前・事後学習：BLS、ストーマケアについて課題を課す(各60分)。 第18回~22回は大腸がんについて看護過程について事前・事後課題を課す(各60分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。 | | | | | | | |
| 授業計画 | 第1回 急性期看護の特徴 (急性期の患者と家族に対する看護) 第2回 周手術期看護の特徴①(手術前) 第3回 周手術期看護の特徴②(手術中) 第4回 周手術期看護の特徴③(手術直後) 第5回 手術後の看護①(呼吸) 第6回 手術後の看護②(循環) 第7回 手術後の看護③(疼痛・消化器系・術後せん妄) 第8回 手術後の看護④(離床・日常生活援助・退院支援) 第9回 手術後の看護⑤術後感染 創傷治癒過程・ドレーン管理(演習)、 第10回 術後合併症フィジカルアセスメント(演習) 第11回 呼吸機能障害患者の看護 事例紹介：肺がん患者の看護展開 第12回 消化機能障害患者の看護 事例紹介：胃がん患者の看護展開 第13回 救急患者の看護①プレホスピタルケア 第14回 救急患者の看護②救急初療の実際(ALS含む) 第15回 救急患者の看護②BLSの実際(演習) 第16回 救急患者の看護③事例紹介：急性心筋梗塞の看護展開 第17回 救急患者の看護④事例紹介：くも膜下出血患者の看護展開(脳死を含む) 第18回 排泄機能障害患者の看護：大腸がん患者の看護過程の展開①(一次アセスメント) 第19回 排泄機能障害患者の看護：大腸がん患者の看護過程の展開②(術前) 第20回 排泄機能障害患者の看護：大腸がん患者の看護過程の展開③(術後) 第21回 排泄機能障害患者の看護：大腸がん患者の看護過程の展開④(演習：ストーマケア) 第22回 排泄機能障害患者の看護：大腸がん患者の看護過程の展開⑤(退院指導) 第23回 発表 まとめ | | | | | | 吉田 吉田 吉田 小寺 小寺 杉崎 吉川 吉川 小寺・全員 豊田 吉田 小寺 小寺 吉川・全員 吉川 小寺 全員 全員 全員 吉田・全員 全員 吉田・全員 | |
| 評価方法 評価基準 | 筆記試験 60%、演習 40% | | | | | | | |
| 教科書 | ①池上徹編集「別巻臨床外科看護総論」医学書院 ②北川雄光、江川幸二編集「別巻臨床外科看護各論」医学書院③江川隆子「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針よくわかる機能的健康パターン」照林社(看護過程論で使用) ④任和子他編「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院(看護技術概論で使用) | | 参考書 等 | 講義の中で適宜紹介します。 | | | | |
| 学生への 助言等 | 身体の構造、病態生理の基本的知識をふまえて授業に臨んでください。成人看護学実習Iで役立つ知識・技術ついて、実習で受け持つ可能性の高い患者事例を紹介しながら講義・演習を行います。 | | | | | | | |